

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学に所定の期間在籍し、基準となる単位を修得するとともに、本学部の目的・理念及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（教育学）の学位を授与する。

1. 全学に共通な学修成果である「学士基盤力」を身につけている
2. 学部共通及び課程（コース）における「学士専門力」を身につけている
3. 卒業研究として、獲得した知識や技能を統合し課題を解決することができ、その成果を論文としてまとめることができる

○学士専門力

以下に、各専攻の育成する資質・能力とその評価方法について示す。

<小中一貫教育コース>

育成する資質・能力	学修成果	評価方法
使命感・責任感・教育愛 (1) 使命感・倫理感 (2) 主体的に学ぶ力 (3) 総合的な教育実践力	(1) 小学校・中学校・小中一貫校の教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できる (2) 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる (3) 自他の教育実践を省察して、自己の課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる	・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
社会性・対人関係能力 (1) チームワーク (2) 課題解決力 (3) 情報リテラシー	(1) 将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するための基礎となる「他者との協調・協働」ができる (2) 課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる (3) 情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
子ども理解・学級経営 (1) 児童・生徒理解 (2) 生徒指導・学級経営 (3) 個と多様性の尊重	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、児童・生徒の実態を把握することができる (2) 児童・生徒の実態に即した生徒指導及び学級経営に取り組むことができる (3) 個と多様性を尊重し、小学校・中学校・小中一貫校の教員に必要な教育的愛情を持って児童・生徒に接することができる	・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
教科等の指導力 (1) 教育の基礎理論に関する知識 (2) 教科等の内容に関する知識・技能 (3) 教科等の指導法に関する知識・実践力	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる (2) 各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる (3) 小学校・中学校・小中一貫校の教育課程や指導法に関する知識及び技能を児童生徒の実態に応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価

<教職実践基礎コース>

育成する資質・能力	学修成果	評価方法
使命感・責任感・教育愛 (1) 使命感・倫理感 (2) 主体的に学ぶ力 (3) 総合的な教育実践力	(1) 学校教育制度の社会的役割を理解し、学校教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できるとともに、社会の一員として適切に行動できる (2) 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる (3) 授業実践の基礎となる教育方法、学習方法、教育課程編成の原理や歴史的遺産を踏まえて自他の教育実践を省察し、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる	・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
社会性・対人関係能力 (1) チームワーク (2) 課題解決力 (3) 情報リテラシー	(1) 将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するための基礎となる「他者との協調・協働」ができる (2) 課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる (3) 情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
子ども理解・学級経営 (1) 児童・生徒理解 (2) 生徒指導・学級経営 (3) 個と多様性の尊重	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、児童・生徒の実態を把握することができる (2) 教育方法及び学習理論、学校・学級経営等に関する専門的知識・技能に基づき、生徒指導及び学級経営に取り組むことができる (3) 個と多様性を尊重し、学校教員に必要な教育的愛情を持って児童・生徒に接することができる	・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
教科等の指導力 (1) 教育の基礎理論に関する知識 (2) 教科等の内容に関する知識・技能 (3) 教科等の指導法に関する知識・実践力	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校教育の成り立ちや現代の学校が直面しているさまざまな教育課題を明確に理解し、適切な対応を考えることができる (2) 各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる (3) 教育課程・学習開発、指導法に関する知識及び技能を、一人一人の幼児・児童・生徒の成長や個性に応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価

<発達支援教育コース子ども理解専攻>

育成する資質・能力	学修成果	評価方法
使命感・責任感・教育愛 (1) 使命感・倫理感 (2) 主体的に学ぶ力 (3) 総合的な教育実践力	(1) 小学校、幼稚園・認定こども園の教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できる (2) 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる (3) 自他の教育実践を省察して、自己の課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる	・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
社会性・対人関係能力 (1) チームワーク (2) 課題解決力 (3) 情報リテラシー	(1) 将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するための基礎となる「他者との協調・協働」ができる (2) 課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる (3) 情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
子ども理解・学級経営 (1) 児童・生徒理解 (2) 生徒指導・学級経営 (3) 個と多様性の尊重	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、心理・行動的問題を示す幼児・児童とのコミュニケーションを図り、幼児・児童の実態を理解することができる (2) 幼児・児童のメンタルヘルスの状態に配慮して、問題の予防・対処に必要な生徒指導、教育相談及び学級経営に取り組むことができる (3) 個と多様性を尊重し、小学校、幼稚園・認定こども園の教員に必要な教育的愛情を持って幼児・児童に接することができる	・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
教科等の指導力 (1) 教育の基礎理論に関する知識 (2) 教科等の内容に関する知識・技能 (3) 教科等の指導法に関する知識・実践力	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる (2) 小学校の各教科等の内容及び幼稚園・認定こども園の保育内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる (3) 幼児・児童の成長やメンタルヘルスの状態に配慮しながら、小学校・幼稚園・認定こども園の教育課程や指導法に関する知識及び技能を授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価

<発達支援教育コース特別支援教育専攻>

育成する資質・能力	学修成果	評価方法
使命感・責任感・教育愛 (1) 使命感・倫理感 (2) 主体的に学ぶ力 (3) 総合的な教育実践力	(1) 特別支援教育に携わる教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できる (2) 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる (3) 特別支援学校や小学校における自他の教育実践を省察することで、自己の学習課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる	・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
社会性・対人関係能力 (1) チームワーク (2) 課題解決力 (3) 情報リテラシー	(1) 将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するための基礎となる「他者との協調・協働」ができる (2) 課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる (3) 情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
子ども理解・学級経営 (1) 児童・生徒理解 (2) 生徒指導・学級経営 (3) 個と多様性の尊重	(1) 知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等の障害特性を理解し、特別な教育的支援を必要とする子どもの実態を把握することができる (2) 特別な教育的支援を必要とする子どもの実態に即した生徒指導及び学級経営に取り組むことができる (3) 個と多様性を尊重し、特別支援教育に携わる教員に必要な教育的愛情を持って子どもに接することができる	・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
教科等の指導力 (1) 教育の基礎理論に関する知識 (2) 教科等の内容に関する知識・技能 (3) 教科等の指導法に関する知識・実践力	(1) 学校教育及び特別支援教育の基礎的諸理論に基づき、知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等の子どもが抱えているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考慮することができる (2) 各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる (3) 特別支援学校の教育課程や知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等に対する指導法に関する知識及び技能を一人ひとりの子どもの発達や障害特性の応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育学部のディプロマポリシーを実現するために、以下の方針に基づいて、各コース・専攻のカリキュラムを編成し、教育を実施する。

<小中一貫教育コース>

1. 教育課程の編成

- (1) 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
- (2) 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーション含む）、専門接続系）と未来共創科目を設置する。
- (3) 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
- (4) 小学校・中学校・小中一貫校の教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
- (5) 小学校・中学校・小中一貫校の教員に必要な使命感や倫理観を持ち、子どもの発達段階や実態に応じた適切な支援によって子どもの成長を支えることのできる指導力が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、小中一貫教育や校種の教育課程の編成を理解できるように、「小中一貫教育の理論と実践」と「小中一貫教育実践研究」を設置する。
- (6) 教科に関する内容および指導法の確かな知識や技能が身につくように、「教科および教科の指導法に関する科目」を設置する。
- (7) 自身の専修において、教科の内容および指導法のより深い専門性が身につくように、中学校の各教科の「教科および教科の指導法に関する科目」を設置する。
- (8) 理論と結びつけながら教育実践でき、他者と協働して課題解決に取り組むことで主体的な学習力が身につくように「教育実践に関する科目」を設置する。
- (9) 修得した知識や技能を活かし、新たな課題を発見し解決へ向けての方針を計画・実施し、その成果を論文としてまとめる力が身につくように「卒業論文」を設置する。

2. 教育の内容・方法

- (1) 各授業科目のシラバスにおいて、学修（到達）目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
- (2) 知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。

3. 学修成果の評価

- (1) 学修目標の達成水準を明らかにするために、シラバス等で成績評価基準・方法を策定・公表する。
- (2) 個々の授業科目においては、公表された成績評価基準・方法に基づき、定量的または定性的な根拠により厳格な評価を行う。
- (3) 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
- (4) GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
- (5) 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。
- (6) ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体をカリキュラムマップで評価する。

<教職実践基礎コース>

1. 教育課程の編成

- (1) 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
- (2) 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語(外国語コミュニケーション含む)、専門接続系)と未来共創科目を設置する。
- (3) 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
- (4) 学校の教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
- (5) 学校の教員に必要な使命感や倫理観を持ち、子どもの発達段階や実態に応じた適切な支援によって子どもの成長を支えることのできる指導力が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、現代の教育課題に対応できる高度な実践力を身につけ、地域や学校における指導的役割を果たし得る基礎的な資質・能力を身につけるため、教職大学院までの6年間を見通した「教職実践基礎コース専門科目」として「教職に関する科目」を設置する。
- (6) 教科に関する内容および指導法の確かな知識や技能が身につくように、「教科および教科の指導法に関する科目」を設置する。
- (7) 理論と結びつけながら教育実践でき、他者と協働して課題解決に取り組むことで主体的な学習力が身につくように「教育実践に関する科目」を設置する。
- (8) 修得した知識や技能を活かし、新たな課題を発見し解決へ向けての方針を計画・実施し、その成果を論文としてまとめる力が身につくように「卒業論文」を設置する。

2. 教育の内容・方法

- (1) 各授業科目のシラバスにおいて、学修(到達)目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
- (2) 知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。

3. 学修成果の評価

- (1) 学修目標の達成水準を明らかにするために、シラバス等で成績評価基準・方法を策定・公表する。
- (2) 個々の授業科目においては、公表された成績評価基準・方法に基づき、定量的または定性的な根拠により厳格な評価を行う。
- (3) 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
- (4) GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
- (5) 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。
- (6) ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体をカリキュラムマップで評価する。

<発達支援教育コース 子ども理解専攻>

1. 教育課程の編成

- (1) 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
- (2) 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語(外国語コミュニケーション含む)、専門接続系)と未来共創科目を設置する。
- (3) 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
- (4) 小学校、幼稚園・認定子ども園の教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
- (5) 小学校の教員に必要な使命感や倫理観を持ち、子どもの発達段階や実態に応じた適切な支援によって子どもの成長を支えることのできる指導力が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、子どもと子どもをとりまく大人の心理や行動に対する省察や、問題の予防や対処のための専門的な知識や技能が身につくように、「教職に関する科目」として子ども理解に関する科目を設置する。
- (6) 幼稚園・認定子ども園の教員として必要な使命感や倫理観、および幼稚園教育に関する確かな知識と指導法が身につくように「保育内容の指導法」等を設置する。
- (7) 教科に関する内容および指導法の確かな知識や技能が身につくように、「教科および教科の指導法に関する科目」を設置する。
- (8) 理論と結びつけながら教育実践でき、他者と協働して課題解決に取り組むことで主体的な学習力が身につくように「教育実践に関する科目」を設置する。
- (9) 修得した知識や技能を活かし、新たな課題を発見し解決へ向けての方針を計画・実施し、その成果を論文としてまとめる力が身につくように「卒業論文」を設置する。

2. 教育の内容・方法

- (1) 各授業科目のシラバスにおいて、学修（到達）目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
- (2) 知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。

3. 学修成果の評価

- (1) 学修目標の達成水準を明らかにするために、シラバス等で成績評価基準・方法を策定・公表する。
- (2) 個々の授業科目においては、公表された成績評価基準・方法に基づき、定量的または定性的な根拠により厳格な評価を行う。
- (3) 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
- (4) GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
- (5) 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。
- (6) ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体をカリキュラムマップで評価する。

<発達支援教育コース 特別支援教育専攻>

1. 教育課程の編成

- (1) 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
- (2) 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーション含む）、専門接続系）と未来共創科目を設置する。
- (3) 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
- (4) 特別支援教育に携わる教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
- (5) 学校の教員に必要な使命感や倫理観を持ち、子どもの発達段階や実態に応じた適切な支援によって子どもの成長を支えることのできる指導力が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。
- (6) 特別支援教育に関する確かな知識と指導法が身につくように、「特別支援教育に関する科目」を設置する。
- (7) 教科に関する内容および指導法の確かな知識や技能が身につくように、「教科および教科の指導法に関する科目」を設置する。
- (8) 理論と結びつけながら教育実践でき、他者と協働して課題解決に取り組むことで主体的な学習力が身につくように「教育実践に関する科目」を設置する。
- (9) 修得した知識や技能を活かし、新たな課題を発見し解決へ向けての方針を計画・実施し、その成果を論文としてまとめる力が身につくように「卒業論文」を設置する。

2. 教育の内容・方法

- (1) 各授業科目のシラバスにおいて、学修（到達）目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
- (2) 知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。

3. 学修成果の評価

- (1) 学修目標の達成水準を明らかにするために、シラバス等で成績評価基準・方法を策定・公表する。
- (2) 個々の授業科目においては、公表された成績評価基準・方法に基づき、定量的または定性的な根拠により厳格な評価を行う。
- (3) 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
- (4) GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
- (5) 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。
- (6) ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体をカリキュラムマップで評価する。